

1 カリキュラムについて

本校は、平成27年度からの文部科学省「教育課程特例校」の指定に基づき、各学年における「英語科」の年間時数を以下のように設定した。

○ 時数

- ・低学年・・・年間10時間
- ・中学年・・・年間20時間
- ・高学年・・・年間40時間

○ 各教科・道徳・特別活動の年間標準時数

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
各教科の指導時数	国 語	306	315	245	245	175	175
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	92(-10)	95(-10)				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
	体 育	102	105	105	105	90	90
道 徳		34	35	35	35	35	35
英 語		10	10	20	20	40	40
総合的な学習の時間				50(-20)	50(-20)	65(-5)	65(-5)
学級活動		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	945	980	980	980

○ 英語科において目指す児童像

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する 気付き
低学年 (出会う)	英語を用いて進んであいさつを交わすなどコミュニケーションを図ることの楽しさを味わっている。	身の回りの物の名前やあいさつの表現などをたくさん聞いたり言ったりして英語の音声に慣れ親しんでいる。	英語を通じて、主に言語の音声の違いについて体験的に理解をしている。
中学年 (ふれあう)	英語を用いて自分が伝えたいことを進んで表現するなどコミュニケーションを図ることを楽しんでいる。	事実や自分の気持ち、考え、意図などを伝える英語の基本的な表現や音声、アルファベット文字に慣れ親しんでいる。	英語を通じて、主に日本と外国との生活、習慣、行事などの文化の違いについて体験的に理解をしている。
高学年 (活用する)	英語を用いてさまざまな相手と進んで会話し互いの思いを伝え合うなど積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	自分や身近な話題に関する外国語(主に英語)での会話について基本的な表現や音声、文字の表記に慣れ親しんでいる。	異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、外国語(主に英語)を通じて、言語や文化について理解を深めている。

○ カリキュラムの内容

- ・各学年のカリキュラムは高学年が使用している **Hi,friends!** に準じて作成した。1, 3 年生が **Hi,friends! 1** を学習して 5 年生につなぎ, 2, 4 年生が **Hi,friends! 2** を学習して 6 年生につなげるようにした。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
Hi, friends! 1	Lesson1～ Lesson4		Lesson 5～ Lesson 9		Lesson 1～ Lesson 9	
Hi, friends! 2		Lesson1～ Lesson4		Lesson 5～ Lesson 8		Lesson 1～ Lesson 8

- ・低・中学年は, 発達段階や児童の実態に応じて 5, 6 年の学習内容を簡易化して, 児童にとって無理のない内容になるよう配慮している。小学校 6 年間を通して, 同じ題材を繰り返し用いて内容のレベルを上げながら学習することで, 児童をより英語に慣れ親しませることができる。それが, 中学校での英語の学習に生かされると考える。

○ 効果的なティームティーチング

2 人の役割を明確にしたり, 評価の観点をはっきりさせたりして, 一人一人に適切な指導をしている。

【HRT】学級担任

- ・授業を進行する。
- ・学習者のモデルとなる。
- ・学習のめあてを児童につかませる。
- ・一人一人の児童に応じた指導, 支援を行う。

【ALT】【JTE（国際理解指導員）】

- ・ネイティブの英語（英語特有のリズムや発音）をより多く聞かせる。
- ・その場に応じた英語を積極的に話す。
- ・英語に関する専門的な知識（発音, 単語, 表現など）を指導する。
- ・外国の文化や生活について指導する。

○ 評価の方法

①行動観察

児童の態度, 行動を見ながら, 学習活動に対してどのような関わりをしているか, どのような反応をしているかを観察し評価していく。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の 3 つの観点それぞれについて授業の中で児童の姿を捉え, 評価していく。

②発表観察

授業中の発表において児童がどのように自分の伝えたいことを表現しようとしているかを観察し評価していく。

③ワークシートの記述

活動の中で児童が学習のめあてに沿って学んだことを記入したワークシートの内容から学習中の児童の姿を捉え, 評価していく。

④自己評価

それぞれの授業の終末において、児童自身が自らの学習を振り返った自己評価から評価していく。

⑤相互評価

コミュニケーション活動の途中において、お互いのコミュニケーションを振り返り、友達の良かったところを伝え合う児童の発表から評価していく。また、ペアやグループでの活動において、児童同士のアドバイスや励まし合いの姿からも評価していく。

2 交流学習について

本校は佐世保米海軍基地に隣接しており、徒歩で外国に行くことができる恵まれた環境にあり、サセボエレメンタリースクールと交流を図るには適している。また、キングスクールとはこれまでに本校にてクリスマス飾りなどを一緒に制作する活動を行ってきた。さらに、本研究の協力校である光海中学校も隣接しており、中学校とも交流を図りやすい環境にある。

このような恵まれた環境を生かし、本校児童が英語を通したコミュニケーションを体験できる機会を多く設けるために、交流学習を行っている。

3 「イングリッシュタイム」の取組について

朝の活動（8:25～8:40）のうち、火・水・金曜日（昨年度は火・木・金）の可能な時間を使って「イングリッシュタイム」を設定した。限られた時間の「週に一度の授業」だけでなく（低・中学年は、さらに授業の間隔が空くため）、より英語に触れさせるためには短時間の学習が効果的であろうと考え、この時間を設定した。

英語に楽しみながら触れる時間として、チャンツ・アクティビティ・歌・書く活動（文字に触れる）などを取り入れた。15分間全部をスキルの文字練習をするのではなく、児童が飽きないように活動させるということに気をつけて活動内容を設定した。計画表や使用する資料（ゲームのやり方・楽譜など）を集めたファイルを各担任に配付し活用した。

4 「英語集会」の取組について

英語集会では、朝活動の15分間を使い、ゲーム形式で楽しむことによって異学年間の児童のコミュニケーションをとることを主なねらいとしている。ALTや国際理解指導員にも参加してもらい3回実施した。

回	活 動 名	活 動 内 容
1	ハロウィンの言葉で遊ぼう	ハロウィンの祭りの始まりを話し、関連のある単語を紹介する。縦割りの班を使ってキーワードゲームを行い、英語に親しむ。
2	クリスマスの言葉で遊ぼう	ALTからクリスマス話を聞き、異文化に触れる。クリスマスに関する単語を使ってじゃんけんゲームを行い、英語に親しむ。
3	英語で福笑い	顔に関する単語や方向を表す英語を使って、日本の昔からの遊びである福笑いを縦割り班ごとにゲームを行い、英語に親しむ。